

祝 皇 紀 2 6 0 0 年

日本は今如何なる土木を必要と致すべきや

聖戦爰に第4年、然も皇紀2600年の新春を迎ふるに際し、我大日本帝國の使命たる八肱一字の大業に參與すべく、我土木界の使命も益々重大なるものあるを感ずるのである。此際『日本は今如何なる土木を必要と致すべきや』に對し權威ある諸家の寄せられたる見解を本誌に掲載する事を得たるは本社の最も光榮とする處である。

各人各様の見地より何れも眞摯なる示唆を與へられたるは含蓄の大なるものあり、今後の何物かに指導的效果を及ぼすべきものたるを信じて疑はない、精讀味讀を乞ふものである。(五十音順)

内務省土木局第三技術課長 赤木正雄
我國が外敵に對し最も勝利の地位を占むる事は誠に幸福と云ねばならぬ。然し自然の外敵に對しては甚だ不利の立場にあり、之がため連年各所に生産を劫かされ多數の災害復舊費を支出して、明治十年から昭和十二年に至る間の水害損失額は實に三十一億四千數百萬圓の巨額に達してゐる状態で、最早災害は天災として單に災害復舊工事に委ぬ可き時代でない。即ち進んで之が禍根を絶たねばならぬ。其の一法として從來特に閉却された砂防工事の徹底的施設を計らねばならぬ。かくて災害を輕減し、生産を確保して始めて興亞大業の内部的基礎が確立するものだ。

日本發送電株式會社建設部 安藤新六
日本の特産たる雨を利用する河水統制事業水力發電事業を大々的に實行し軍需生産の擴充に専念する事を目下最必要なる土木事業なりと思考す。之等事業遂行の爲工事施行に關

する業者の質的向上改善を計るべき事は多年先覺者の唱道せし處なれ共、舊態依然たる實狀なり。

一ケ年數十億に達する金額を消費する土木工事の良否は、其構造物の生命の長期なる丈其國家經濟に影響する所甚大なるものあり。土木に従事する官民は共に共に業界革新に指導協力せられ度く、其雰圍氣の内より業界に偉人の出現を待望するや切なり。

前土木學會長 井上秀二

土木事業は國土の經營文化の進歩、人類の福祉増進の爲め、地球の表殼を改造するものとして、資源の開発、國防其他あらゆる事業の基礎となり、又先驅たる使命を有するものなるが故、常に學理の研究實施の經驗を忽にせず、最大の能率を達成する爲に、努力を繼續せざるべからず。

東京電燈株式會社土木課長 大島滿一
興亞の大業を完成すべき我國は、之に必要

なる資材、機械、肥料、雜貨等の生産擴充を必要とする。生産は成るべく動力に依り、限りある人力を大に効率を發揚する必要がある。幸我國は未開發水力地點が極めて多い。之が開發は最も急務である。尙之等の生産物輸送の交通路に就いても、其幹線は尙一段の補強を要する。滿洲、支那に於ては自ら異なる土木を要するや勿論である。

廣島鐵道局工務部長 岡田 信次

土木工事は平和産業にも軍需工業にも又戰爭そのものにも必要缺くべからざる基礎條件である事は言ふまでもないのに、未だそれが世に徹底しないのは不思議な程である。

鐵道だけに就て考へても、車輛の不足が大に叫ばれて、多數の車輛が續々と動き出したら、それを收容する線路がない、積込施設がない、操車場が足りないで、折角作った車輛の全能力を發揮し得ない。山陽本線の自動信號化が叫ばれて、本年中に大部分出来る事になつたが、成る程中間は自動信號のため列車回数は大いにふやせるが、列車は走つて許りないから收容する線路が必要だ、即ち土木が先づ必要なのである。

然も土木工事は複雑だから出来るまでに多くの日數を要する、故に先づ土木工事を第一にして而して他の施設に、掛るべき事を一般に認識せしむるを要す。

鐵道省大阪工事々務所長 沖 鹽 政 次

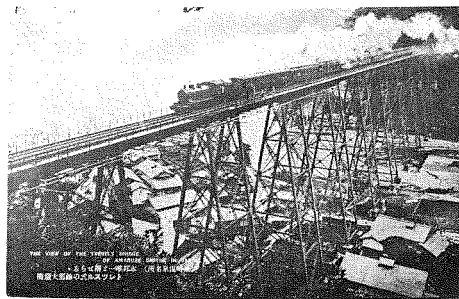
支那大陸を經營し興亞の聖業を達成する爲には先以て日本内地と大陸との巨離を短縮し

早急に且つ氣輕に交通し得る様施設する事最も肝要と思考せらる。

尙交通路も朝鮮經由の一本建にては廣大なる大陸經營には不十分なるを以て、日本海岸諸港と羅津間の交通路は勿論、博多又は長崎と青島又は上海とを結ぶ交通路も必要にして此等に附隨したる彼我の鐵道並に港灣の土木工事を急施するの必要を痛感す。

長崎縣土木部長 尾 崎 義 一

距離の短縮と速度の増加が常に運輸交通上の



の問題である。之を道路改修に就て見るに、經濟の點より又工法上より大なる障礙を爲すものは大橋梁と大隧道である。關門トンネルは既に實施を見、今や朝鮮海峽その他の海底隧道連絡が本氣に企圖せられつゝある時、

隧道の經濟的にしても又簡易なる工法の發見は、本計畫に寄與する處大なるのみならず、將來我が國の道路線形を現在とは別種のものとなすであらう。又橋梁に於ても、之を築造する資材の改良と低廉豊富なる入手が期せらるゝならば、又別種様式が生れるであらう。運輸交通上の問題の一は大橋梁大隧道の經濟的工法である。

内務省土木局第一技術課 河 口 協 介

國民生活と産業開發の根源をなす利水土木事業の興隆を期することこそ刻下の必要喫緊事と存候。

東京帝國大學工學部教授 草 間 偉

吾邦が開關以來の大犠牲を拂つた支那事變は幸に忠勇なる陸海將士の奮闘により大捷を

博した。此興亞の大業の礎となつた幾多の勇士英靈に對し、吾人は感謝感激の情に堪えないものである。併し吾人は只感激したのみではならない。此大業の有終の美を擧げる様に誠實に日夜努力せざる可らず。

之には日滿支三國は永遠に和衷協力して其巨億の資源を開發し共存共榮を企圖せざる可らず。又遠く國防第一線が大陸に於て數千軒に延長したるのみならず、世界の強國が本邦の急激なる發展を嫉視して居る今日大に國防を充實せざる可らず。此の兩者の爲には先づ第一に道路鐵道を敷設せざる可らず。又河川港灣を修築せざる可らず。大に水力電氣を起さざる可らず又新附の民を心より悦伏せしむる爲に水質の悪き支那に水道事業を起し、安價に良水を供給せざる可らず即汎百の工業に先立ちて先づ叙上の土木事業を起し、土木日本の眞價を發揮せざる可らず。此意味に於て筆者は支那、滿洲の第一線に於て活動せられてゐる土木技術家に對し將士に對すると同様滿腔の謝意を表するものである。

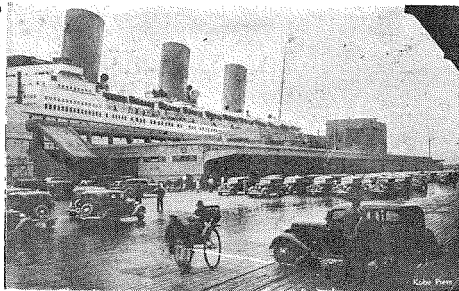
日本電力株式會社取締役土木部長

齋藤孝二郎

獨り土木工事に限つた事ではありませんが、不急の仕事は當分後廻しとして見送り、緊急己むを得ざる仕事、換言すれば事變完遂に必要な仕事のみを先以て遂行すべきでせう。其上餘裕さえ有れば何をやろうと隨意です、誰も彼もが、此仕事も緊急、彼の仕事も大切と、事變に結付けて相競ふのは戒め度い。

御諮問の回答としては土木工事に就ても右の規範を以て律すれば自ら明でせう。

内務省大阪土木出張所長 佐藤利恭
生産擴充政策の達成には、直接に道路、港灣等の交通機關の改善を必要とすべく、間接には災害を防止輕減する治水工事の完璧を期し、同時に工業用水の圓滑なる配給の爲め河水統制事業の促進を急務とす。特に東亞新建設の實行には人的資源として土木技術者の養成、物的資源としては土木工費用材の獲得を



保証するに非ざれば其の成果を望み得ざるべし。

日本製鐵株式會社建設部長

進 來 要

製産擴充に即せる土木にして從來の安全第一主義の土木より轉して『間に合ふ土木』即ち時間的にも資材としても而して

經費は第二義とならん。

前京都帝國大學教授 瀧山 與

人的及物的資源の窮乏せるにも係らず土木事業の多過ぎるのが現在に於ける企業者並に施工者の悩みです。其の結果凡ての工事は遅れ勝ちで、中途半破のものとなるのです。企業者側より言はゞ何れも緊急を要するものでせうが、大乘の見地よりすれば、支那に於ける軍事並に滿洲國に於ける國防に直接關係を有する工事が第一次的のものです。

私は内地を犠牲にしても支那並に滿洲國に於ける土木工事を大に促進したいと考へるものです。

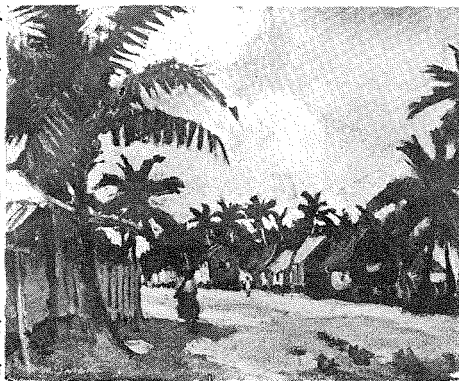
南洋廳土木課長 田吹行雄

土木が平時にも戰時にも必要欠くべからざ

るものである事は申すまでもない、特に港灣河川、鐵道、道路及水力は其最たるものと思ふ、折角の重要資源も之等土木施設が完備してゐなければ開發は覺束ない、又國防保全は期し得られない。南洋には滿洲や支那にて得られないボーキサイドやニッケルなどの資源が豊富である、又鐵鑛も金鑛も燐鑛も石油も多い、それにゴム、コブラ、麻及砂糖等の農産物は無限である。内地までは遠いが、總て海上運搬だから支那の奥地から運送するよりは却つて運賃が安い。吾南洋群島は國防上には偉大價值を持つて居るが、惜しいかな島が小さく、南洋資源の大部分は徳川三百年間唯取られてしまつた英領、蘭領の老大なる島々で、人口稀薄、徒に資源が地下に眠つて居る。茲を開發する事は吾々大和民族の爲のみでない、又世界人類の爲で吾々の任務であると信ずる。

内務省名古屋土木出張所長 田淵壽郎

1. 國內道路の完備。
現在我國道路は府縣本位となりて國として統制ある道路少し、從而一朝事ある時の交通に遺憾な點多し、依而此態勢を整へて改修すべきは急ぎ爲すを要す。
2. 治水及發電の重大性に鑑みて貯水池の増設及現在湖水の補護と利用の爲の工事。
3. 都市防空設備の完備。
4. 大陸に對する港灣改良の促進。
目下某方面の港灣に力を入れて居るも、大陸對策としては此方面のみにては不足な



我國に恵まれた唯一の天然資源への開發が急務なることは論を俟たない。昨今の石炭、電力の饑饉が産業各方面に如何に多大の支障を及ぼしたかは、益々此感を深からしめる。

大阪市電氣局運輸部長

橋本敬之

り、今二ヶ所位は徹底的になす要あり。

關東州廳土木部工務課長 塚本精太郎

- (1) 東京下關間廣軌鐵道ノ増設。
- (2) 都市ニ於ケル防空壕ト、水道ヨリ獨立シタル防火水槽ノ設置。
- (3) 工業用土地ノ造成。

東北振興電力會社理事 萩原俊一

電力が動力の90何パーセントを占めてゐる點から見て、又火力發電の爲に年々500萬噸程の石炭が消費される點から觀て水力發電へ

今次事變勃發以來、數ある工業部門の内、直接軍事に必要なものと、生産擴充に關係あるものは何れ劣らず目醒しき躍進を遂げ、我世の春を謳つて居りますが、土木を職とするものは、どちらかと云へば第二義的に取扱はれ、寧ろ低調の状態であります。併し何れの産業でも大なる擴張發展は土木工事に依存せず成果を擧げる事は出來ないのでありまして、其適例として動力と交通の行詰りをあぐる事が出來ます。こう考へますと資金、資材の關係がありますが、我土木界は之より漸次好況時代に入り生産擴充に必要な部門を魁けとして道路、橋梁、上下水道の如き公共的土木工事迄も、遅かれ早かれ發展の時期

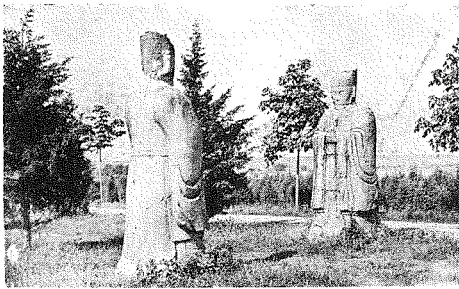
を迎ふるのではないかと思ひます。

大阪市土木部技師 日 笠 育 夫

人物資源、物的資源の不足し、而もなすべき土木事業の山積せる現在、技術そのものの研鑽は勿論必要ではあるが、最小の人的、物的資源を以て最大の効果を期すべき工事能率の研究及活用、換言すれば、土木事業運営管理學とでも稱すべき、純技術を離れた一研究體系の確立されねばならぬ時かと思ふ。

内務省土木試験所技師 松 尾 春 雄

學問としての土木が歐米に比し一般に非常におくれてゐる様に思ひます、我邦土木技術者が有する學問的な基礎知識が平均して貧弱であり、従つて獨創的な考察が行れないのは極めて遺憾であります。此の方面でも世



界の一等國となる爲には各自がもつと眞剣に工學の勉強をして工學の核心を掴まなければならぬと思ひます。夫と同時に之は國民全體に關する事ですが、思想的な脊髄がなく骨なし國民になつて、此の世の所謂輿論に追隨する外能のないやうな人間とならないやう、各自が一つの哲學を持つやうにしたいと思ひます。

興亞院技術部長 宮 本 武 之 輔

新東亞の建設が専ら日本の責任に於て完遂されなければならない關係上、私は日本内地だけを目標とする議論は避たいと思ふ。

日滿支ブロック内の眼前の要請からすれば、日本内地と大陸とを通じて交通の整備増強、特に日滿に於ける動力の開発に重點を置

く必要があり、資源開發は大陸に重點を置くべきで、貧弱な内地の資源に固執すべき時期であるまい。これら産業開發の基礎的條件が充足されなければ生産擴充は到底行はれない

工學博士 茂庭 忠 次 郎

御承知の通り支那は五千年の歴史を有し、蒼生四億を算し、嘗て東洋文化の中樞を占めた大國であるが、清朝没落後數十年間、名は共和政治と稱するも、全く其の實なき年間やら、蔣介石等一門一黨の專制政治に禍ひせら

れ、侮日抗日を以てモットーとし、他力本願徒らに歐米のみに依存し、あらゆる社會施設の如きは殆んど顧みられざる状態にあつた。従つて交通産業衛生等國民の福祉を増進すべき文化設備即ち土木工事の總ては非常に遅

滯して、今日の文明から甚だしく遠ざかつて居るのである。斯かる次第なれば、興亞の大業を達成する爲には、我等は協力して彼等を助成し指導し、且つ鞭撻して道路、鐵道、港灣治水、運河、上下水、都市計畫等あらゆる土木施設を完備せしめ、民福を謀り、産業資源の啓發に當らしむる事が肝要であるが、就中上水道の設備が焦眉の急と思ふ。千を以て數ふる支那の大都市中、上水道を施設するのは僅かに二十市に過ぎない。他は何れも不完全な井戸水に依るか、河川池沼の濁水を用ひて生活して居る。飲料水の不自由は直接住民の非衛生状態を惹き起し、傳染病の流行は年中絶ゆる事はない。勇敢なる皇軍も水の不良には非常に困つて居らるゝ様である。我々

も興亞の大業達成の爲め渡支せんとするも、この有様では安心して往く譯にゆかない。即ち支那に於ける上水道の完備は興亞政策上、最緊急と考へねばならないのである。

東東市港灣局技術長 森田三郎

日本ノ國策ガ生産力擴充貿易振興ニアル以上、交通ト運輸トニ關係アル土木事業が必要デアルト思ヒマス。

鐵道ノ廣軌化、

港灣ノ修築、

ソシテ常ニ對岸大陸ヲ目標トスベキ工事は専念スル秋デシヨウ。

元鐵道省工務局長

山田隆二

東亞百年の計を樹つる爲、日滿支を通じ建設又は整備擴充を要望せらるゝ土木事業は枚擧に遑な

きも、就中焦眉の急を告ぐるものは支那大陸に於ける重要資材開發に關する 備の新設又は整備なりとす。即ち物資豊富なる支那各地に於ける資源開發を一日も早く實施し、所謂自給自足の實を擧ぐるは現下國際狀勢より見るも絶體緊急事と思考す。而して本件に關し最も重大なる役目を爲すべき交通即鐵道、道路、港灣の設備建設は吾人の最も必要を感じる土木工事なりとす。特に支那に於て資材輸送機關たる鐵道の不備不足を整備するを要するものと考へる。

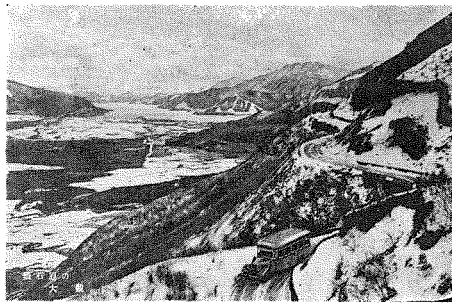
神奈川縣土木部長 横山 喬

日滿支を打つて一丸とする航空陸上又は海上交通の基本方策を樹立する一大調査會を作り、其決定に基づく空港、道路、鐵道或は港

灣施設を計畫實施すると共に、之れに附帶する施設を擴充するは、今日我國として新東亞建設の國策上から、一日もゆるがせにする事の出来ない焦眉の急務であると信ずるものである。

前土木學會副會長 米元晋一

日本の土木事業は日支事變の始まる以前迄は主として國內の産業開發が目標となつてゐたから、大體に於て規模が小さかつた事は止を得ないのであるが、日支事變が勃發してか



ら以後は其跡始末をするがために對滿支の連繫を回り、東亞住民の福利増進を目的とする所謂東亞建設の大事業の達成に向て邁進しなければならぬ事となつた。従つて今后我が國土木は東亞大陸の産業開發を目標に置き、

道路、鐵道、港灣等交通事業や發電水力並に治水利水事業や、將又都市の發展整備等、其の規模の大にして數量の多きこと従前の比で無いのである。一方土木技術者は内外の土木事業のため殆んど總動員せられ、尙且甚だ不足を告げて居る様な状態であつて、今こそ土木技術者は活躍の舞臺が以前に數十倍する程廣くなり千載一遇の好機會に恵まれるに至つたのである。然るに現在の土木技術者の數は到底増大せる需用を充たすことが出来ない様な状態に在るから、人的資源擴充のために其の養成に大馬力を掛けることが刻下の急務と考へられるのである。